

事業名	姉妹都市・友好都市交流事業
-----	---------------

総事業費	263 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	各市との姉妹都市・友好都市と交流事業を行う。	
事業の実績 と成果	取組内容	関係自治体等との連絡調整を密にし、交流活動を推進する。
	成果	鉄砲まつりでは、姉妹・友好・関係都市との交流を実施することができた。また、本市からも、長浜市と堺市のまつりにそれぞれ参加した。 ほかにも、スポーツ交流として、長浜市スポーツ少年団が8月に来島し、本市スポーツ少年団と交流を深め、コロナ禍で休止となっていた歴史ある活動を再開することができた。 また、在ポルトガル日本国大使館主催の天皇誕生日イベントがリスボンで開催された際には、本市紹介ブースを設置（本市のポスターやパンフレット等を配架）していただき、来場者に本市のPRをしていただいた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	ヴィラ・ド・ビスポ市との交流はメールによるやり取りが主になっている。在ポルトガル日本国大使館や在京ポルトガル大使館等の支援をいただきながら、メールだけにとどまらない情報交換や交流を実施していくことが必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	4年ぶりに開催された令和5年度の鉄砲まつりは、日本ポルトガル交流480周年、ヴィラ・ド・ビスポ市盟約30周年の節目となっていた。祭りを機にあらゆる交流事業を実施したが、令和10年度（2028）には、ヴィラ・ド・ビスポ市盟約35周年の節目となる。交流イベントとして5年毎に行うのか10年毎とするのか、いずれも時間の経過は早い事からあり方も検討しながら備えておく必要があると思われる。 鉄砲館等とも連携しながら、交流の在り方を模索していく事も必要であるとする。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	各自治体との祭り等を通じた交流を実施する。 ヴィラ・ド・ビスポ市との交流を更に深める。
------------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	種子島ふるさと応援隊事業
-----	--------------

総事業費	555 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	・種子島出身者や関係者、興味のある方に応援隊に入会していただき、関係・交流人口の拡大を目指す。	
事業の実績 と成果	取組内容	出郷者会への参加、ふるさと応援隊員へ広報誌「市政の窓」等の送付、種子島ふるさと交流大会の開催等
	成果	令和5年度に引き続き種子島ふるさと交流大会を実施し、隊員の参加があり、交流を深めた。 ゴルフ大会参加者102名（うち島外参加者17名）、交流会参加者73名（うち島外参加者16名）

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	ふるさと応援隊の隊員数については、高齢化により脱退が増えてきている。また、各出郷者団体についても会員数が減少しつつあるとの報告を受けている。 種子島ふるさと交流大会については、島外参加者の参加が減って島内参加者のための大会となりつつあり、本来の趣旨と異なってきているため、今後のあり方を検討する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	○本市の関係人口で支援・応援者でもある「種子島ふるさと応援隊」の会員数は令和6年度末で168名と減少傾向にある。新規の隊員を増やす取組として、「二十歳のつどい」開催時におけるPR活動とSNS等を活用した情報発信を行うとともに、種子島ふるさと応援隊のような魅力ある活動を継続して実施することで隊員数の増加を図る。 ○出郷者（会）や種子島ふるさと応援隊等と連携し、ふるさとへの提言・モニター・広告・販路拡大等を行う支援体制を再構築する。 ○出郷者と地元との繋がり・絆をさらに深める場でもある「種子島ふるさと交流大会」について、今後のあり方と事業内容の検討を行う。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	出郷者とのつながりを保ちながら、本市施策の推進と出郷者団体の活動支援について検討する。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	<p>全国各地で活躍している本市出身者と本市に居住している市民との交流を目的とした種子島ふるさと交流大会を実施した。 ゴルフ大会には102名の参加があり、うち島外参加者は17名であった。交流会には73名の参加があり、うち島外参加者は16名であった。</p>

事業名	グリーン・ツーリズム推進事業
-----	----------------

総事業費	1,704 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の受入を増やし、入込客数の増加を狙う。 ・市民にも広く認知してもらい受入体制の充実を図るため受入家庭を増やす。 ・農林漁業体験を通して、教育旅行で訪れる学生との交流を図り、市民とのつながりを構築する。 	
事業の実績 と成果	取組内容	<p>専門員を配置し、誘致活動、問合せ対応、研修会充実などを行う、集客等交流等活性化事業から移行し、事業を一本化。</p> <p>グリーン・ツーリズム受入体制整備事業と連動させながら、都市部と農林漁村の人々との交流による、第一次産業と観光の活性化のために、受入体制の充実に取り組んだ。</p>
	成果	<p>R6年度は、姉妹都市である伊佐市グリーンツーリズム協議会の交流事業を実施し、両市における歴史や文化・観光に関することや、グリーンツーリズム推進事業の活動内容を学んだ。加えて、県グリーンツーリズム推進協議会の研修会も実施するなど会員の研鑽にも務めた。</p>

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	受入家庭の高齢化が顕著であるが、研修会等を積極的に開催し、安心・安全な活動ができるよう支援していく。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	昨年に引き続き、新潟からの受け入れを行った。また、受け入れ拡大に向け、姉妹都市である伊佐市グリーンツーリズム推進協議会の交流事業を実施した。両市における歴史や文化・観光に関することや、グリーンツーリズム推進事業の活動内容、更に県グリーンツーリズム推進協議会の研修会へ参加するなど会員の研鑽にも務めた。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	令和7年度は、受入れ学校が増加する計画であり、コロナ禍以前の活発な取組みが期待される。伊佐市とも昨年度に引き続き交流事業を計画しており、協議会の活発化に向けた支援を継続していく。
------------	---

事業名	鉄砲まつり事業
-----	---------

総事業費	11,000 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	より多くの市民がまつりに参加することで、郷土意識や相互の理解を深めてもらう。 観光客等の誘客を行い、市の観光振興や交流人口の増加を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	種子島鉄砲まつり実行委員会等で実施項目について検討し、祭り運営を関係団体と連携し進めた。
	成果	各関係者の協力をいただき、花火大会では全国花火の競演、演芸大会では笑顔の演出としてキャラクターショーを実施することができ、多くの来場者が訪れ盛大に実施することができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	参加者や協力団体の人手不足など課題はあるが、祭り内容については絶えずブラッシュアップを図り続けていくことが必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	観覧者も昨年より増加し、事故もなく盛大に実施された。市民の反応も良く、馬毛島工事関係者の参加もあり、価値あるイベントとなった。一方で、担い手不足は他事業と同じで顕著であり、今後の課題でもある。市民が注目する内容の企画、交付金を活用した「花火」をレベルアップした取り組みが期待できる。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	R7年度は再編交付金を活用し、花火大会を盛大に実施する。
------------	------------------------------